令和４年度　　神戸市立　　木津小学校　　学校評価報告書

項	育てたい子供の姿	重点目標	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価（4点満点）	学校関係者からいただいた評価・意見等	改善策 ※左欄（学校関係者からいただいた評価・意見等）を踏まえた改善策には、下線
心豊かに　たくましく生きる 神戸の子供を育む	進んで学ぶ子　心優しい子　たくましい子	進んで学ぶ子	**一人一人に応じた きめ細やかな指導の充実**	「学ぶ力・生きる力向上支援員」の配置や短時間勤務職員の配置、教科担任制の導入により、全学年の算数において複数指導の学習形態をとることができた。それにより、つまずきのある子供への支援がしやすくなった。理科アシスタントの支援で、より充実した実験ができた。	3.7	・学校公開デーや授業参観で、各クラスの子供たちの様子（成長）がよく分かった。 ・先生の数が増えるに越したことはない。 ・複数指導、理科アシスタントの活用など、今後も一人一人に応じた支援を模索しながら有効な支援を継続してほしい。	来年度も支援員の配置をお願いしたい。効果的な複数指導の在り方を考え、分かる授業を実践していく。また、配慮を要する児童への個別の対応ができるように時間割の改善や教科担任制の導入、教材研究にも努めたい。
			基礎基本の徹底育成	基礎基本の力を付け、児童が伸びを感じられるよう、常にめあてを意識した授業を行った。家庭学習の見直しも行った。基礎基本の徹底や家庭学習のさらなる充実の為には職員の意識向上・共通理解が必要である。自分学習は、無理なくできることを検討しスタートした。今後も、より自主的に学べる方法を検討する必要がある。	3.6	・学習の定着に時間がかかる子供たちもいると思うが、支援を継続していってほしい。 ・自分学習の導入で、自分で考えたことを文章や絵に出来たのも良かった。自分で考えるのが難しい児童には、いくつかの課題から選ばせるのも良い。 ・書く活動を取り入れることは、学力の定着につながる。	基礎学力の定着を図るために週1回の放課後学習を行った。基礎基本の徹底を図る活動を継続・発展させていきたい。また、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を行う。児童の放課後の学習支援や体力づくりについても、地域の力を貸りられないか、今後も学校運営協議会で相談していく。
			言語活動の充実（読書活動の推進）	読書の継続で、子供たちが本に親しむことが出来た。また、ブックママによる読み聞かせにより、読書の楽しさを数多く経験できた。自分の考えを書いてまとめてから、話し合う機会を増やすことで、自分の考えをしっかり話せる力を付けられた。また、書く力を高めたり、学びをふり返ったりすることができるよう、学習後「まとめ」や「振り返り」を書く活動を取り入れることを試みた。さらに、国語科での単元を貫く言語活動を意識して取り入れる必要がある。	3.5	・子供たちが静かに読み聞かせを聞いてくれて嬉しい。「ブックママ」の貢献度は高い。今後も継続させていきたい。児童は、本が好きである。読書は、心の安定にもつながると思う。 ・ICT教育が進み、コミュニケーション能力の必要性を感じる。学校でもさらに高めていってほしい。 ・学習前に単元について、知っていることを書き出したり、共有したりすることで、興味をもって学習に入れるのではないか。単元を貫く言語活動で本を活用されていたのが良かった。	読み聞かせで本への興味関心を高めるとともに、いかに普段の読書活動に繋げていくかということも考えていきたい。国語での並行読書の重視や、言語活動の充実に努めるとともに、様々な教科で主体的に学習に取り組めるよう、「読む・話す・聞く・書く」活動を意図的に取り入れていく。
		心優しい子	温かい学級集団作り	道徳や学級指導を通して、「助け合う仲間作り」を目指して取り組んでいる。また、自他を尊重する心を育んできた。優しい子供たちが多いが、勝手な行動をしたり、きつい言葉を使ったりする児童もいるので、今後もそのような行動を見逃さずに指導したり、豊かな心の育成を継続したりしていく。	3.7	・家庭の教育、地域での声掛けも必要である。同様の意識で関わっていきたい。 ・相手を思いやる心を大切にしていきたい。男女仲良い姿が印象的。友達関係を固定しないような配慮が必要である。 ・ほとんどの児童が、集団で仲良く登校している。	相手の気持ちを考えた行動ができるように、特に「言葉遣い」の指導に継続して力を入れていく。その為には、全職員の「言葉遣い」に対する意識や指導方法を統一する必要がある。家庭への啓発も継続していきたい。
			規範意識の向上	職員室への入室など、立ち止まって正しい言葉で話すことができた。しかし、語彙の乏しさ・言葉遣い・規範意識については、まだ課題がある。	3.7	・あいさつがきちんとできる子が増えてきていて気持ちがよい。これを継続させてほしい。朝の挨拶がしにくい時に、朝ご飯を食べていないこともあるようだ。 ・「木津っ子のめあて」をもとに、さらに子供たち規範意識や思いやりの心を育ててほしい。	年間を通して「木津っ子のめあて」を週目標とリンクさせ、指導を積み重ねていくことで、全校生の「木津っ子のめあて」に対する意識をさらに高めていきたい。家庭への啓発も継続していきたい。
			異学年とのふれあい	「わくわく活動」を通して、上級生を主体とした異年齢活動がスムーズに行われ、仲良く過ごすことができている。6年生と1年生が同じフロアにいることで、微笑ましい交流ができていた。5年生が、自然学校で経験したことの報告をするなど、学習での交流もできた。	3.5	・「わくわく活動」や6年生による1年生のお世話を継続していくと共に、有効なペア学年での活動を考え、実践していくことでさらに効果を高めていきたい。 ・公園では、学年関係なくよく遊んでいる。 ・登校時に下級生の手を繋いでいる上級生がいる。	・上の学年が手本になることが理想。そうなるよう指導していきたい。今後、自然な声の掛け合いができるよう、兄弟学年での活動を取り入れたり、地域での活動を活性化したりする手立てをさらに考えていきたい。
		たくましい子	体力の向上	体育学習では、「めあて」を提示した学習を行った。各時間、つけたい力を明確にした指導をすることで体力の向上を図った。目指すものをはっきりさせることで、子供たちが力をつけることができた。	3.2	・団体で行う運動でたくさん遊ぶことで、楽しみながら体力も向上するだろう。 ・ホームページを見ると、学校は体力向上に向けて、色々な手立てをしていることが分かった。	今年度の「体力アップ」の成果を検証し改善を図っていくと共に、休み時間の運動を促していく活動をさらに活性化していきたい。
			運動の推奨	遊びの時間を確保し、自由に遊べるようドッジボールや長縄を提供したり、運動委員会がイベントを企画して行ったりした。	3.7	・様々な運動を経験させたい。 ・縄跳びでは、様々な跳び方にチャレンジしていた。親子でも取り組めた。 ・寒い中でも、外で遊ぶ姿が良かった。	子供たちは、広い運動場でのびのびと遊んでいる。学習内容が運動の多様化に繋がるように、またより運動に親しむことができるように、手立てを考えていきたい。
			粘り強さの育成	「粘り強さの育成」を教育努力目標に加えて3年目。粘り強く学習にも運動にも取り組めるよう、個々のめあてを意識した言葉かけをしたり、自己の成長が分かるようスモールステップで成果を確認する機会を設けたりした。各個人の課題が自分学習（家庭学習）につながるよう指導・支援していきたい。	3.2	・難しいテーマだが、大切なことである。大人も粘り強く指導してほしい。 ・大人（教職員）が、早くに手を差し伸べず、子供を信じ、待つことが大事である。	今後も、体育学習の中で、主体的に粘り強く運動に取り組めるような学習計画を立てたり、研修を行ったりしていきたい。また、体育学習のみに関わらず、「粘り強さ」を『思いを伝える』『正しいことを判断する』『心の強さ」とも捉え、「たくましく生きる」力を育んでいきたい。
	自分の思いや考えをもち、高めあう児童の育成（書く力の向上を目指して）	主体的な学びと書く力の向上を目指して（135年）		書く力を高めるために、「日常的に文章を書くこと（学習の振り返り）」と「学習の中で文章を書くこと」を継続的に行った。また、算数科の公開授業で、どのようにすれば「楽しく書くことができるのか」「書く力を付けられるのか」に焦点を当てて研修を行った。	3.2	・担任の注意や励ましで、字を丁寧に書くようになった。継続できている。HPを見ると、丁寧に書いている子が多いのも分かる。 ・取り入れた情報を、文章でまとめるなどの自分で表現する力が必要である。写すことも書く力を付ける第一歩である。 ・子供たちの心の中にあるものに目に見えるようにする「言葉かけ」が大切である。授業力向上の研修を継続してほしい。 ・ICTの活用についての進化に驚いた。 ・書くと活動を、国語のみならずしているのが良い。継続してほしい。	子供たちは、書くことに対して抵抗を感じなくなっている。教材を通して、「どのように書けばよいか」を学び、「伝えたいこと」をはっきりさせて書くことが出来た。また、語彙が少しずつ増している。次の学年でも、ついた力が生かせるよう常に指導要領解説を意識し、ICT活用も視野に入れて系統性を大切にしていく。子供たち自身が「ねらい」を理解し、「どのようなことを考えればよいのか、視点をはっきりさせる」ことができるような授業への改善や書く指導の継続をしていく。視写や聴写も意識して取り入れていきたい。
		「キーワード」や「ポイント」をおさえてまとめる力の向上を目指して（246年）		書く力を高めるために、「日々の学習の中で文章を書くこと」と「学習の振り返りを書くこと」を行った。全体研修では、算数科の授業を公開した。根拠を交えて説得力のある予想や考察を書くことを目指した。			
安全・安心で楽しい学校を築き、地域と共に子供を支える		いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組（いじめ問題対策委員会）		週2回の終礼や生徒指導委員会を全員で行い、児童の様子を共通理解し、全職員で全児童を見守ることを目指した。毎学期「いじめアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努めると共に、いじめに対する意識を高めている。	3.3	・子供たちの仲の良さを感じる。楽しく学校に通えるよう、子供たちの関係に目を配りながら指導していってほしい。アンケートに書くことで教師に伝えられる取り組みは、良いと思う。 ・防止に加え、大小に関わらず、起こったときの対応も研修していって欲しい。	いじめ問題対策委員会で、いじめに繋がりそうな問題について共通理解に努めると共に、教職員のいじめに対する意識がさらに高まるような研修を行っていきたい。
		超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得		毎週火曜日をエコデーと位置づけ、特例がない限り18:30全職員完全退出日とした。また、エコデーだけでなく、通常の施錠時刻を19:00に設定したり、会議の終了時刻を守る努力をしたりすることで、全体の時間に対する意識が高まった。	3.1	・先生方の心と体のリフレッシュは、大切である。 ・エコデーの取組は良いと思う。 ・夜遅くまで、学校に電気がついている日は、ほとんどないように思う。	全職員での会議や研修だけでなく、学年の打ち合わせなどでも時間に対する意識を高め、みんなの時間を大切にしながら効率的に仕事を進める職場にしていきたい。教職員の勤務時間や職務内容についても、保護者や地域にも広報するなどして理解を得る努力をしていきたい。
		新型コロナウイルス感染症関連		養護教諭中心に、共通理解を図りながら協力して感染拡大防止のための対策を行った。（給食・教室など、学習活動の行動面・消毒面）また、保護者への情報発信を行った。	3.9	・情報が変化する中で、迅速に対応し、安全に学校生活が送れるようにしていただいている。 ・他校に比べると、学級閉鎖が少なかったのではないか。	刻々と状況が変化してきている。今後も、手紙やすぐーる、ホームページでの情報発信を行ったり、PTA本部（次年度は、保護者会本部）の方の協力を得たりして、出来る限りの安全安心な環境づくりをしていきたい。
		「すぐーる」の活用、ホームページにおける情報発信		校長を中心に学校HPをほぼ毎日更新し、子供たちの様子を細かに発信した。地域や保護者への閲覧の呼びかけも行った。警報など、即時対応すべき案件も多かったので、すぐーる（連絡配信サービス）も活用した。	3.8	・ホームページが毎日更新されているので、児童の学校での様子が分かる。我々も、毎日見るようにしています。 ・ホームページの毎日の更新で、学校の様子が地域住民にも伝わるし、家庭での話題になってよい。	学校ホームページの内容をさらに充実させていきたい。保護者への広報もさらに継続していく。「すぐーる」の機能を有効活用し、学校からのお知らせのペーパーレス化を進めるとともに、情報発信の工夫もしていきたい。
		登下校時の見守り活動（PTA・青少協）		・地域の方々が登下校の見守りを毎日行って下さっている。校区内の安全確保ができている。 ・連絡帳、電話、家庭訪問を使い分けながら、保護者との連携を密にしている。	3.8	・学校と、地域との連携は随分密になってきている。校長先生が毎朝、地域を回っておられることはとても有り難く感じている。臨時休校の際は、警報時の対応を地域の方と共有しているのが良い。 ・見守っている側も、元気をもらっている。 ・警報の際、先生方も見回りをしてくださって、児童の安全が確保された。今後も地域住民や保護者の協力を得て、教育活動を進めてほしい。	登校時間の変更について、今年度中に広報し、来年度に備える。地域人材をより有効に活用するため、地域とのつながりを強化し、さらなる人材確保を目指していく。保護者も忙しく、仕事で留守の家庭が増えてきている。連絡方法を工夫しながら、保護者との連携を密にしていく。
		学校生活のルールや決まりについて		・学校の決まりについて、校内の職員会議や研修会で校則について話し合い学校の決まりの見直しを行った。	3.2	・夏休みの川遊びの通報に対して、すぐーるで素早く対応していただけた。	朝会時や長期休みの前に必要に応じて全校指導をし、教職員の足並みをそろえる。また、児童の様子や保護者の声を聞きながら、見直しを進めていく。
		学力向上、体力の向上についての取り組み		・学ぶ力生きる力支援員を中心に放課後学習を継続して行った。　・運動場にジャンプボードを新設したり、運動用具を児童の動線に合わせて見直したりした。児童の遊びへの興味関心が高まった。	3.3	・縄跳びは、手軽に意欲的に練習に取り組むことができる用具である。 ・学校開放の活動で運動に取り組んでいることは、有意義である。 ・広い運動場をもっと木津小の強みに出来るのではないか。	鉄馬が安全にできるよう、人工芝の部分を広げる。また、放課後学習については、持続可能な方法を模索して、継続する。学校開放委員会やマナビイ委員会と連携し、児童の遊びを通した体力の向上も考えていく。
「人がつながり　ともに創るみんなの学校」づくり		①学校評議員会との取組みの違い		・学校運営協議会委員が委員長を中心に意見交換をしたり、集合したりできるよう、連絡先の交換をされていた。 ・学校の課題に対する意見をいただいた。 ・150周年行事に向けての組織にメンバーを位置づけた。	3.1	・学校運営協議会主体で、学校の教育活動について応援の提案ができるとよいと思う。学校運営協議会をもっと多く開催しても良いのではないか。 ・学校の取組、児童の様子などを聴くことができた。地域の児童の様子も共有できた。 ・今後、児童の安全について協力して取り組めるかもしれない。	150周年の組織メンバーに学校運営協議会委員を位置づけ、いただいた意見を行かせるようにする。また、年間3回に限らず、協議会を必要に応じて実施する。
		②育てたい子供の姿の共有		・育てたい子供の姿を伝えあうとともに、本校のグランドデザインを承認していただいた。	3.2	・PTA（保護者会）からも、育てたい子供アンケートを取り、参考にしてはどうか。	今年度学校運営協議会で話し合った育てたい子供像を生かして、次年度提案するグランドデザインを作成する。保護者会本部役員の意見も参考にする。
		③親しみやすい学校づくり		・名札を配布し、いつでも来ていただけるよう呼びかけた。 ・HPを日々更新し、児童の様子を見ていただけるようにした。	3.1	・家庭科での地域保護者の支援補助の取組も考えられる。地域保護者の協力を得る取組も、学校理解に繋がる。 ・全面改修を終え、より全体が明るくなった。150周年の伝統ある学校なので、地域住民も強い思いがあると思う。学校とともに行事を作りたい。 ・学校に市民図書室があり、高齢者の方も本を借りられて喜んでいる。	150周年行事を児童・教職員・保護者・地域で振り返り、より地域の良さを生かした教育活動に取り組む機会となるようにする。教育課程に可能な限り、組み込む。
		④子供を育む活動		・毎回の学校運営協議会で学校での児童の様子を伝えたり、地域での児童の様子を教えていただいたりした。 ・地域での登校時の見守りを継続していただくとともに、児童が感謝を伝える機会を設けた。	3.2	・下級生は、上級生のことを見て育つ。挨拶は、親の協力と高学年の指導がポイントとなる。 ・見守りのお礼の手紙は、もらった側が癒されると思う。 ・自治会主催のお祭り「秋葉フェスティバル」やふれまち主催の「防災訓練」を学校の運動場をお借りでき、先生方にも見学していただけた。児童の楽しんでいる姿を見ていただけて、感謝している。地域全体で育てていきたい。	今後も、朝の登校の見守りをしてくださっている方との連絡を密にし、児童の安全確保についての共通理解を図る。また、児童が地域の方に支えられているということを意識できるような指導をするとともに、感謝を伝える機会の確保をする。学校運営協議会・保護者会との連携を強化し、地域・保護者・学校が共に子供を育む環境作りに努める。